

日本溶接協会マイスターに聞く

白庭氏



日立製作所日立工業専修学校

白庭晋一氏

寮は木造で、廊下が鏡のように磨かれていた。びかに磨かれていた。授業では基本の溶接姿勢をひたすら反復練習した。「最初の姿勢が悪いとその後の上達速度が遅くなる」と白庭氏。「技能五輪の選

「現場監督にやり方がわからないと伝える。28歳で結婚したが、彼は上手な手つきで、開先ギャップのなかに溶接棒を入れ、隙間から覗き込むように溶接をした。白庭氏は「学校で溶接科をでたのにもできない自分分が悔しかった。絶対腕の良い溶接士になつてやると誓った。当時は、製品が大きいくつ割し、日立埠頭に場所を借りて TENT を張って作業した。また、山口県の笠戸工場まで輸送して一体化するとい

89年には日立製作所の全社競技会の半自動の部でも優勝。「競技でもある日専校の教諭に就く。「溶接は重要度が高い職種でもあるので、まずは安全第一。安全に対しては臆病にならぬことを徹底する。」「一般の工業高校生への指導では、人間関係を作る時間もないので、まずは溶接が嫌いにならないような指導を心がけている。若い頃は厳しく指導もしたが、時代が合った教え方をしなくてはならない」と変化を感じている。

「現場監督にやり方がわからないと伝える。28歳で結婚したが、彼は上手な手つきで、開先ギャップのなかに溶接棒を入れ、隙間から覗き込むように溶接をした。白庭氏は「学校で溶接科をでたのにもできない自分分が悔しかった。絶対腕の良い溶接士になつてやると誓った。当時は、製品が大きいくつ割し、日立埠頭に場所を借りて TENT を張って作業した。また、山口県の笠戸工場まで輸送して一体化するとい

若いころの悔しさを糧に

溶接のやりがいを後進に伝える

日立製作所が運営する日立工業専修学校(茨城県日立市)で溶接を志したのは、機械実習講師を務める白庭晋一氏(67)。長年、日立製作所の電力グループで火力・原子力発電設備の給水加熱器などの工場溶接や現地据え付けで溶接士として活躍をした。2006年からは日専校の教諭として溶接の指導も行う。現場経験に基づいた溶接士としての心構えを多くの後進に伝えてきた。「若い頃の現

「職場の中でも、きれいな溶接ビードの人のように磨かれていた」と、そうでない人が授業では基本の溶接姿勢をひたすら反復練習した。「最初の姿勢が悪いとその後の上達速度が遅くなる」と白庭氏。「技能五輪の選

「現場監督にやり方がわからないと伝える。28歳で結婚したが、彼は上手な手つきで、開先ギャップのなかに溶接棒を入れ、隙間から覗き込むように溶接をした。白庭氏は「学校で溶接科をでたのにもできない自分分が悔しかった。絶対腕の良い溶接士になつてやると誓った。当時は、製品が大きいくつ割し、日立埠頭に場所を借りて TENT を張って作業した。また、山口県の笠戸工場まで輸送して一体化するとい

89年には日立製作所の全社競技会の半自動の部でも優勝。「競技でもある日専校の教諭に就く。「溶接は重要度が高い職種でもあるので、まずは安全第一。安全に対しては臆病にならぬことを徹底する。」「一般の工業高校生への指導では、人間関係を作る時間もないので、まずは溶接が嫌いにならないような指導を心がけている。若い頃は厳しく指導もしたが、時代が合った教え方をしなくてはならない」と変化を感じている。

「現場監督にやり方がわからないと伝える。28歳で結婚したが、彼は上手な手つきで、開先ギャップのなかに溶接棒を入れ、隙間から覗き込むように溶接をした。白庭氏は「学校で溶接科をでたのにもできない自分分が悔しかった。絶対腕の良い溶接士になつてやると誓った。当時は、製品が大きいくつ割し、日立埠頭に場所を借りて TENT を張って作業した。また、山口県の笠戸工場まで輸送して一体化するとい

白庭氏は中学を卒業する。日専校に入学。2年時のコース選択で溶接を志したのは、機械実習講師を務める白庭晋一氏(67)。長年、日立製作所の電力グループで火力・原子力発電設備の給水加熱器などの工場溶接や現地据え付けで溶接士として活躍をした。2006年からは日専校の教諭として溶接の指導も行う。現場経験に基づいた溶接士としての心構えを多くの後進に伝えてきた。「若い頃の現

「職場の中でも、きれいな溶接ビードの人のように磨かれていた」と、そうでない人が授業では基本の溶接姿勢をひたすら反復練習した。「最初の姿勢が悪いとその後の上達速度が遅くなる」と白庭氏。「技能五輪の選

「現場監督にやり方がわからないと伝える。28歳で結婚したが、彼は上手な手つきで、開先ギャップのなかに溶接棒を入れ、隙間から覗き込むように溶接をした。白庭氏は「学校で溶接科をでたのにもできない自分分が悔しかった。絶対腕の良い溶接士になつてやると誓った。当時は、製品が大きいくつ割し、日立埠頭に場所を借りて TENT を張って作業した。また、山口県の笠戸工場まで輸送して一体化するとい

89年には日立製作所の全社競技会の半自動の部でも優勝。「競技でもある日専校の教諭に就く。「溶接は重要度が高い職種でもあるので、まずは安全第一。安全に対しては臆病にならぬことを徹底する。」「一般の工業高校生への指導では、人間関係を作る時間もないので、まずは溶接が嫌いにならないような指導を心がけている。若い頃は厳しく指導もしたが、時代が合った教え方をしなくてはならない」と変化を感じている。

「現場監督にやり方がわからないと伝える。28歳で結婚したが、彼は上手な手つきで、開先ギャップのなかに溶接棒を入れ、隙間から覗き込むように溶接をした。白庭氏は「学校で溶接科をでたのにもできない自分分が悔しかった。絶対腕の良い溶接士になつてやると誓った。当時は、製品が大きいくつ割し、日立埠頭に場所を借りて TENT を張って作業した。また、山口県の笠戸工場まで輸送して一体化するとい



技能五輪の課題



生徒が学ぶ「溶接学校」



生徒を指導する白庭氏

案して、自分に合ったやり方を見つけてあげる。

伸びる生徒の特長を聞くと「まず真面目なこと。あとは覚えるのに時間がかかる子の方が、何度も繰り返して練習するので、後になつて大きく伸びる場合が多い」という。

周田からも白庭氏は「明るく熱心な指導をしてくれる」と評され、卒業後に悩みの相談に来る生徒も多い。「仕事では人間関係の悩み相談も多い。言ってくれば工場と連携して解決できることもある。ただ中には、溶接の腕が良いのに何も言わずに突然辞めてしまう場合もあり残念に思うこともある」

職場外での活動としても、県内の工業高校への出張指導もしている。22年7月の関東甲信越コンクルの茨城県代表の選手にも指導をした。

「一般の工業高校生への指導では、人間関係を作る時間もないので、まずは溶接が嫌いにならないような指導を心がけている。若い頃は厳しく指導もしたが、時代が合った教え方をしなくてはならない」と変化を感じている。

今後、指導者、マイスターとしての目標を聞くと「一流の溶接技術者になるためには、知識と技能のバランスが重要。溶接の楽しさと同時に、私が若い頃に福島県の現地工事で経験したような厳しさの中で、のやりがいを、若い人に伝えていきたい」と語る。